

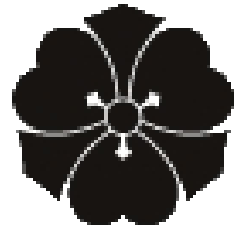
■ ハナカタバミ・・・



六小脇フェンス沿いのカイドウの根元に群生しています。花の色は濃いピンクで、5枚の花弁を合わせた花全体の直径は約4センチ。葉っぱの形状は、黄色い花を咲かせるカタバミと同じで三つ葉のハート型ながら、大きさが約5～6センチもあり、とても大きなものです。第一印象は、野生種のイモカタバミの塊茎が大きく育ち、りっぱな花を咲かせているのかと思いましたが、詳しく観察してみると、園芸種のハナカタバミでした。日当たりのよい場所を好み、日照が十分でないとう開花しません。別名「オキザリス・ボーウィ」と呼び、最近、園芸店で人気の「オキザリス」の一つです。オキザリスとは、球根性のカタバミのことです。

カタバミは、南アフリカのインド洋に面したケープ半島東部が原産地で、日本に入ったのは江戸時代、天保年間のようなようです。今ではごく当たり前に目にする帰化植物となりました。果実は円柱状で先がとがり、真っ直ぐに上を向いて付き、成熟すると、触れた瞬間に自ら種子を弾き出します。その様子はとても滑稽で、子どもと野で遊ぶときに試してみると大喜びです。

また、繁殖力が強く一度根付くと絶やすことが困難であることから、「(家が) 絶えない」に通じ、家運隆盛・子孫繁栄の縁起を担いで家紋に広く用いられています。今月からリメイク上映される「椿三十郎」のオリジナル版では、三船敏郎が「剣片喰(ケンカタバミ)」を身につけていましたが、さて、織田裕二はどうでしょうか。



落語でも、長屋で家紋の話題が出ると、庶民の家紋の代表として扱われることが多く、ご隠居が「どんな紋だった？」と問い、「なんだかおケツが三つくつついたような」と返すパターンになっています。



最後に、「四葉のクローバー」イラストとして、右のようなデザインをしばしば目にしますが、これは間違いです。クローバーは丸い葉で白い線があり、カタバミは葉の先が割れてハート形をしているからです。従って、このイラストは、正しくは「四葉のカタバミ」となります。この間違いに気付かず、イラストやロゴ、アニメなどに使っている例は少なくありませんから、ちょっとした蘊蓄を披露するネタに

なるかもしれませんね。

では、下の可愛いイラストはどちらでしょうか。

